

「想像力／創造力をはぐくむ社会・空間的な集積が重要」

加藤政洋さん

都市とは出会いの空間／都市の原初形態と水／はじめに都市ありき

「路地の暮らしとともにあったものづくり」

藤田富美恵さん

長屋の路地で教わったこと／江戸～明治期の家業は晒蠟／路地はありがたい空間

■ クロスオーバー・トーク（後場）

記憶をつなぐことの重要性／混じることから生まれるもの／都市は本来は生産の場／失うことにも目を凝らしたい／産業の集積には背景がある／コモンズの重要性を見直す

加藤政洋さん・藤田富美恵さん・佐藤 隆さん・池永寛明さん／会場から

上町台地
今昔
フォーラム
vol.12

映像&トーク 1900年パリ万博から、大阪・関西万博後の百年へ
上町台地を視点場に、都市と博覧会の世紀を
レビューする (2019年9月、NEXT21 2階ホール)

■ 第1幕 レビュー・ムービー & スライドショー

「1900年～ 1948 年 タイムトラベル」

構成：大阪ガス CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキング

1900 第五回パリ万国博覧会／1903 第五回内国勧業博覧会／1925 大大阪記念博覧会／1948 復興大博覧会

◆主要掲載図版 第五回パリ万博会場／第五回内国勧業博覧会の会場正門／大林高塔から見た第五回内国勧業博覧会会場／復興大博覧会の会場正門

■ 第2幕 レビュー・トーク

「大大阪」へのグランドデザインと、
都市戦略としての博覧会の過去を読み解く」

古川 武志さん（大阪市史料調査会 調査員）

第四回の内国博誘致で京都に敗れた大阪と堺／近代以前、都市の基盤は住人／第五回内国博が示したのは近未来の都市の姿／新しい時代の都市観光のかたちも提示／どのような都市をつくるのか都市の課題解決に向けて／戦災復興の博覧会と21世紀を展望した70年大阪万博

■ 第3幕 レビュー・トーク

「2025年大阪・関西万博とその後の百年に向けて、
都市と博覧会を再定義する」

池永寛明さん（ナレッジキャピタル 大阪・関西万博会議～ワイガヤサロン～座長、大阪ガス エネルギー・文化研究所 顧問）

まず、万国博って、なんだろう？／4期に分かれる万国博の歴史／万国博覧会のコンセプトも時代にそって変遷

●「あなたにとって、都市と博覧会とは？」

万国博を近未来の都市のあり方を考える場に／あなたにとっての万博とは？／「大阪・関西」であることの意味を考えたい／2025年の万国博覧会は、「史上 No.1の万博」にしたい／導き出したのは「2025ふところ万博 寛容な社会の実現」／キーワードは「他者交流」「共同体験」「挑戦」／次の世代に何を伝えていくのか／2030年の社会に思いを馳せながら2025を考える

山蔦栄太郎さん・古川武志さん・池永寛明さん

会場から（吉岡 武さん・中越慈子さん・斉藤貞三郎さん・稗方直己さん・保田充彦さん・二神 敦さん・村井秀行さん）

上町台地
今昔
フォーラム
vol.13&14

大阪の原点・上町台地から、ポストコロナの真の「レガシー」に迫る
災禍と祝祭を生きたモダン大阪の新星たちは、
今、何を語ってくれるだろうか

(2020年10月、うえほんまち銭屋ホール・オンライン)

■ Scene 1 プロローグ

「エピソード年表でたどる、
災禍と祝祭を生きた新星たちの点と線」

構成：大阪ガス CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキング

時代を生きた若き群像／転機は第五回内国博／金尾文淵堂、東京へ／新星誕生の背景、近代化の光と影／戦後に続くその軌跡

◆主要掲載図版 1902年1月2日、関西文学同好会新年会の集合写真／1903年の第五回内国勧業博覧会会場の夜景

■ Scene 2 プロローグ その1

「“エコール・ド・大阪”ともいうべき時代精神とアーティストが果たした役割」

橋爪節也さん（大阪大学総合学術博物館教授／大学院文学研究科教授兼任）

“エコール・ド・オオサカ”の時代／

《KEYワード》企業家のフィランソフィ／大大阪（だいおおさか）／イメージの大大阪／シンボル誕生／關市長の名言／大大阪は文化都市を目指す／奮起する画家たち／二つのベクトル大大阪 VS 浪花／赤と黒との印象／大大阪君の似顔絵／街中のアート／がめつい ヒョウ柄／三都素数の都市／こんども負け戦だったな

■ Scene 3 プロローグ その2 会場とオンサイト（現場）を結んで

「災禍と祝祭を生きた新星たちとの出会いから、ポストコロナの真の“レガシー”とは何なのかに迫る」

●「コロナ禍の本質を考える」

池永 寛明さん（大阪ガス エネルギー・文化研究所 顧問、ナレッジ
キャピタル大阪・関西万博会議～ワイガヤサロン～座長）

コロナ禍で何が変わったのか／変わる、「社会的価値観」／「鳥の目」と「魚の目」でコロナ禍後を見ていきたい

イマジン・トーク

「イマジン」を発揮し、コロナ禍の「真」のレガシーを考える」

●「現代の大阪はどう見えるのか？」

池田 真優さん（現代アーティスト）

水と共生し、文化を培った地／ダイナミックな空間と色

① Video message

「表現することの手前で大切な「ひとりの民主主義」

上田假奈代氏（詩人、NPO 法人ココローム代表）

「ココローム」という場づくりから／釜ヶ崎芸術大学と井戸掘り講座／コロナ禍の「ひとりの民主主義」

② Video message

井戸掘りを通して、見えないつながりを実感

小谷真功さん（高津宮宮司）

かつてあった井戸を甦らせる／作業を通じて広がる交流の輪／目には見えないご縁をつないで

③ Zoom online

人が人を呼んでくる関係の場づくりを大切に

吉岡 徹さん（NPO 法人 出発のなかまの会、松野農園）

農園の野菜を通じた交流も／多文化交流の実践の場を提供／まず顔が見える関係づくりから

④ Video message + 会場

“助ける喜び”“助けられる喜び”が出会うまち

岸村 修さん（ももに広場管理運営会会長）

地域の心と力をつなぐ「ももに広場」／“ふつうに暮らす幸せ”を見つめよう／喜びも悲しみも分かちあうまちへ

⑤ Video message + online

変化の激しい地域で、公園を核にまちと人の想いをつなぐ

吉見孝信さん（北大江地区まちづくり実行委員会委員長）

三木啓正さん（都市空間企画研究所代表）

歴史的な要素が色濃い地域／人の動きが大きな地域のまちづくり／公園づくりはこれからも続く

⑥ Zoom online

子育て世代の交流から、まちづくりの担い手へ

宮野順子さん（中大江学童保育保護者会会長、武庫川女子大学准教授）

「都住創」への入居と地域のネットワーク／「まちと育つ」、学童保育のチャレンジ／まちに住まう文化を次の世代にもどのような未来を築いていきたいか？

池田 真優さん

日本が「再起動」するため／未来の世界を命輝ける社会とするには／大阪は挑戦者のまち！／心を重視する世界への変化を

風土が変われば、感性が磨かれ、文化が生まれる

この地で次世代を育む、キーパーソンが対話を
通して共に築く—— 未来へのブリッジと上町台地の力
(2021年3月、NEXT21、交流室 オンライン LIVE配信)

■ダイアログナイト・プロローグ

「大阪・上町台地と先駆的な社会事業の流れを振り返る」

構成：大阪ガス CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキング

上町台地と大阪の社会事業の流れ／日本の社会事業のルーツ、四天王寺の「悲田院」／都市化と社会問題の発生／伝染病対策で設けられた桃山病院／愛染橋を拠点に石井十次が活動／社会事業の大転換につながる「米騒動」、そしてスペイン風邪／大阪ではじまった方面委員制度／大原社会問題研究所の開設／大阪の社会事業のシンボル、北市民館／戦災跡に「夕陽丘母子の街」構想／大阪発祥の社会事業の多さと女性の活躍

■ダイアログナイト

「この地で次世代を育む、キーパーソンが対話を通して共に築く——未来へのブリッジと上町台地の力」

Silent Voice × クロスベイス × 空堀ことば塾 × 天使のミール go-on

進行役 弘本由香里 (大阪ガスCEL 特任研究員)

<バックグラウンド>

●「聞こえない子が自分らしく生きることができる社会に向けて」

尾中友哉さん (NPO 法人 Silent Voice 代表理事)

上町台地に感じる強い縁／聞こえない両親のもとで育つ／コミュニケーションの本質とは／誰もが自分らしくいられる社会

●「多文化の子が共生できる地域の未来を求めて」

宋 悟さん (NPO 法人クロスベイス 代表理事)

在日3世としての人生の転機／地域のことを主体に考える／貧困の連鎖を越えていくために／地域の核づくりを共に考える

●「ことばと身体から広がる健全な自我意識」

埴 狼星さん (空堀ことば塾 主宰)

上町台地が出発点の空堀ことば塾／大阪に連続と続く私塾の伝統／手と足は世界とつながっている／ことばと身体を芸術を体験

コメント紹介

●「未来につながる、心と身体に優しい店づくり」

藤井 恵さん (天使のシフォン go-on オーナー)

親と子どもが共に楽しめるお店に／店名の go-on は継続する思いから／こども食堂とイベント企画

■ダイアログナイト フリートーク

アイデンティティとは何か／若い頃に「自我感覚」を育てる／コンプレックスを超えていくことから／日本社会は沈んでいくのか？／能力主義を越えて、多様な尺度で／「そこにいる」という他者理解／上町台地から未来へのブリッジを

東西東西！上町台地から「相撲」と大阪のまちの深い縁を眺めれば、これからの地域・社会を描く鍵が浮かび上がってくる！
(2021年10月、NEXT21、交流室 オンライン LIVE配信)

■<ダイアログナイト・プロローグ>

「大阪の原点・上町台地から、相撲と大阪のまちの関わりを眺望」

構成：大阪ガス CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキング

地域の営みと相撲の風景／角力人形がつなぐもの／蓄積されてきた相撲文化／寺町とタニマチの伝統／大阪の戦後復興と相撲／地域に根を張る相撲文化／地域社会と相撲の深いつながり

◆主要掲載図版 難波新地の勧進相撲／川崎巨泉が描いた角力人形

■ダイアログナイト

「都市・町・村の営みとともにあった“相撲”の風景は、何を物語っているのか——これからの地域・社会を形づくる鍵を探る」

<キーノートスピーチ>

●「大阪のまちの形成と“相撲”の縁を紐解く」

飯田直樹さん (大阪歴史博物館 学芸員)

これからの地域社会を描くための三つのキーワード／長い歴史をもつ大阪相撲／堀江での大相撲興行と相撲集団の成立・堀江の開発と相撲・公権力の関与と新地の発展・堀江での相撲の様子／江戸時代の共同体としての町・町による家屋敷取得規制の実例／相撲集団と仲仕の関係性とは・蔵屋敷で働く仲仕(なかし)／相撲興行の勧進と・共同体の再建は相互扶助機能の再生から・表 道修町三丁目文書

◆主要掲載図版 大阪大相撲之図 1892年

<トピックトーク>

●「村相撲にみえる擬制血縁とその崩壊」

別所秀高さん (鴻池新田会所 学芸員)

きっかけは展覧会のための調査・枚岡神社での村相撲の風景／村相撲の頭取の襲名披露興行・中河内地域の相撲部屋の分布／隆盛だった村相撲と相撲団体／相撲の組織と村の共同体／都市化の進展と共同体の衰退

◆主要掲載図版 河内名所図会

●「社会に根差す方法論としての“相撲”文化の本質」

池永寛明さん (大阪ガス エネルギー・文化研究所 顧問)

モノ・コトの「本質」とは何か／土俵の〇は日本社会の「本質」／「大阪」って何だろう？／大阪はどのような都市なのか／大阪の「本質」とはを再考する／日本的なるものを生みだしてきた大阪・

●「地域のサブシステムとしてのスポーツクラブと相撲」

高松平蔵さん (ドイツ在住ジャーナリスト)

ドイツのスポーツクラブとは／そのメンバーの属性はバラバラ／地域にとって重要な意味もある／スポーツクラブへの貢献者を顕彰／スポーツクラブは社会の課題を共有する場／血縁・地縁コミュニティのサブシステム／都市化と都市社会化の間で、サブシステムとしても機能

■ダイアログナイト トークセッション

進行役 弘本由香里 (大阪ガスCEL 特任研究員)

「衰退」と「再建」をつなぐのは、「本質」か／大きく異なるドイツと日本の人間の関係性／共有財産の形成と維持のモチベーションは何か／コロナ禍でのリアルとバーチャルの融合／一見矛盾しているものをつなぎ直していく／コミュニティ再生の鍵はどこにあるのか／コロナ禍を越えていくために／一人ひとりが改めて自分の生活を見直していく／「心の時代」につなげるために／スポーツを地域のものにするためには

メモリアルトーク“相聞(あひぎこえ)”の台地から
肥田皓三先生を偲ぶ

(2022年3月、NEXT21・2階ホール 録画配信)

■メモリアルトーク 第1部

「上町台地 今昔タイムズ」&フォーラムから

肥田先生を偲ぶ～先生が愛した資料とお話

構成：大阪ガス CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキング

肥田先生と上町台地 今昔タイムズ／肥田先生が愛した生玉人形／露伴・紅葉と上町台地の西鶴墓／もっと評価されるべき暁鐘成／肥田青年を支えた「上方」／気鋭の出版社、金尾文淵堂／晶子と鉄幹の相聞の舞台／西行の名吟は大阪人にとっての喜び

◆主要掲載図版 暁鐘成「瀬川両岸勝景図会」の「難波橋納涼」の図／「大阪名勝図絵」の巻之巻

■メモリアルトーク 第2部

「肥田先生の語りを振り返り、
なにわ文化の“粋”に触れる・語り継ぐ」

司会 弘本由香里 (大阪ガスCEL 特任研究員)

●橋爪節也さん (大阪大学総合学術博物館教授・文学研究科教授兼任)

大阪のまんなか、島之内・道仁小学校の大先輩／鍛冶屋町45番地の文化的密度／文人の研究を介して先生に出会う／心齋橋愛の発露「モダニズム心齋橋」／肥田家の文化的な気風と高津宮

●明尾圭造さん (大阪商業大学公共学部教授・商業史博物館首席学芸員兼任)

出会いは小・中学生時代、中之島図書館で／関西大学で先生の講義を受ける／「阪神間モダニズム」展を支えた知／どこまでもスマートな立ち居振る舞い

●滝北 岳さん (読売新聞大阪本社編集委員)

すごいお方、高津高校の縁で取材を申し込む／連載から、『再見 なにわ文化』出版

同人誌「新菜箸本撰」と肥田先生／奇なこと「趣味性と学術性」／先生の着物姿に貫かれた実践／記憶に裏打ちされた世界の深さ／無花果(一軸)会と肥田先生／最後の原稿に記された資料／肥田先生ご自身の語りと原体験／肥田先生の大阪・島之内言葉／愛された高津の縁と同窓会／碁盤目の迷宮、島之内が育てたもの／町人学者の系譜を受け継ぐ存在／「上方」を血肉とした大阪愛／先生の業績にどう応えていくか

